**患者様、ご家族様へ**

　CT検査は患者様の病気の診断に大変重要な検査です。しかしその反面放射線被ばくを伴います。そこで患者様やご家族様がCT検査に対しご理解いただけるよう「放射線検査における被ばく」について記しました。どうぞご一読ください

**「放射線検査における被ばく」について**

●医療被ばくとは

　放射線検査などを受ける患者さまの被ばくのことをいいます。放射線を使う検査には被ばくというリスクが伴います。医師は、患者さまが放射線検査を受けることで病気の診断、治療の方針決定などのリスク以上の便益（ベネフィット）があると判断して検査を行っております。

●被ばくとその影響

①確率的影響について（ある一定以上の放射線量を受けたときガン・遺伝的影響が一定の割合で増加します）

　受けた放射線の線量が100mSv未満であれば、放射線検査を受けた人も受けなかった人も、発がん率や遺伝的影響の明らかな有意差は認められません。当院の通常検査では超えることはありません。

②確定的影響（障害が起こるとされる線量にしきい値があり、それを超えると脱毛、不妊、皮膚障害等の障害が現れます）

　短時間に一定の線量（しきい線量）を超えない限り発生しません。しきい線量とは1％の人に症状が出る値であり、当院の通常検査では超えることはありません。

●当院CT検査で予想されるおおよその線量（実効線量）

　　頭部：2.8mSv　胸部4.5mSv　腹部：12.7mSv　　※検査内容等によって異なります

●当院で実施している医療被ばくの低減に関する取り組み

　検査を行う診療放射線技師は診断に影響のない範囲で患者様の被ばくをできるだけ少なくするよう検査を行っております。

　また、CT検査では年に1回被ばく線量を評価し、見直しを行っています。

※CT検査をご希望されない方は担当医またはスタッフにお声がけください

基本的に健康被害をもたらす被ばく線量ではありませんが、不安なことやわからないことがありましたら遠慮なく主治医または放射線科までお問い合わせください

　　　　　　　　　　　　　　　　みどり病院　　医療放射線安全管理委員会